



竹島直樹
(柊の会)

AIを活用したデマンド交通を 導入する考えは

地域の特性に応じたサービスの 導入実現に向けて検討

問 十和田市地域公共交通計画の取組状況は。

答 本計画に基づく取組は次の3つです。

- ①市街地循環バス4便、西地区シャトルバス2便を増便したほか、公共交通の空白地の一つであった一本木沢地区において、8月から新たに東地区シャトルバスの実証運航を開始しました。
- ②予約制乗合タクシーをいずれの路線も各2便増便しました。
- ③旧十和田湖地区で運行している公共交通空白地有償運送の運賃をより安価に改定したほか、これまで冬期間のみの運行であった休屋、焼山間を通年運行としました。

問 自宅から目的地までドア・ツー・ドアの乗合タクシーを人工知能のAIで自動配車し、最適な乗り合いや運行経路を計算するデマンド交通サービスを導入する考えは。

答 利用者にとって大きな利点があると認識しています。市地域公共交通計画において、フリー乗降やデジタル技術の活用による予約、配車システムの検討に取り組むこととしており、地域の特性に応じた効率的で利便性の高いサービスの導入について、計画期間内での実現に向けて検討を進めたいと考えています。

問 休屋地区や焼山地区などの観光地に、老朽化が進み危険な状態にある空き家があると思うが、市が解体を代執行すべき空き家はあるか。

答 休屋地区と焼山地区に対象となり得る特定空家等が1件ずつあります。所有者に法に基づく指導、助言を行うとともに、文書や電話、面会を通して改善を促しています。改善が見られない場合は、諸手続を進めることとなりますが、代執行の費用については、回収困難の可能性があるため慎重を期すべきと考えています。



笹淵峰尚
(黎明親和会)

市秋まつりを観光コンテンツ化 する考えは

主催者3者で意見交換していく

問 当市では、奥入瀬十和田利活用協議会において、自然環境の保護と観光の両立を官民一体で行うとして先進的な取組を進めていると思うが、持続可能な観光地域づくりのための取組の現状は。

答 当市では、奥入瀬溪流でのエコロードフェスタやグリーンスローモビリティなどのマイカー規制に向けた各種先進的な取組を地域での奥入瀬溪流サステナブルツーリズム推進事業として、十和田奥入瀬観光機構が主体となり、観光庁に本年6月に優良モデルとして採択されたところです。現在は事業の実施段階に入っており、必要な手続を進めることとしています。市の観光戦略では、サステナブル（持続可能）な観光地域づくりを掲げていることから、関係団体と連携し、引き続き当該事業の推進を含む持続可能な観光地域づくりに努めていきたいと考えています。

問 市民協働の観光振興について具体的な取組は。

答 地域の隠れた観光資源が魅力ある観光コンテンツとなった事例として、十和田バラ焼き、奥入瀬溪流氷瀑ツアー、コケ散歩などがあります。今後も地域ならではの隠れた観光資源について情報収集しつつ、観光コンテンツの掘り起こしに努めていきたいと考えています。

問 当市における市民協働の最大イベントである秋まつりを観光コンテンツ化すべきと思うが市の見解は。

答 祭りを構成する参加団体や関係する事業者などの理解と協力が必要不可欠であることから、主催者である市、十和田商工会議所、十和田奥入瀬観光機構の3者でその可能性について、意見交換していきたいと考えています。